

♡ ことばの力 ♡ からだの力 ♡ こころの力

園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 平成30年7月2日



「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

毎日が「個人懇談会」です。

夏本番

子育てには不安や心配ごとは



6月30日(土) 創立70周年
の記念行事では、存分にお楽し

みいただけましたでしょうか。

これからもよろしく願いいたします。

つきものです。毎日が『個人懇談

会』、お気軽に担任にお話くださ

い。「共に育てるパートナー」とし



て、情報共有していきたいと考えています。

< 幼児期に育てたい能力 > 小学校につながる基礎となる力 No. 1

文字学習の前に、まず「話しことば」を豊かに育てましょう！



本園は、『小学校につながる確かな学びの基礎を培う』幼児教育を教育指針としています。

それは、小学校教育の先取りをするのではなく、幼児期にふさわしい生活の中で子ども自身が自信をもって小学校へ進むことを意味しています。

立って歩く前にはしっかりハイハイをし、ハイハイの中で身体の筋力や平衡機能など歩行に必要ないろいろな力を自らの内に育てていき、最終的に立って歩けるようになるのです。

それと同じように、文字の読み書きをストレートに教えられる前に、それを学ぶ土台の力が育っていなければならないのです。その土台の力を「レディネス」と言います。

文字学習のレディネスとしては、三つの側面から整理してお話していきましょう。

まず、一つ目の表現力の側面です。日常生活における学生たちのことばを聞いていると、感覚的な用語の連発です。「エーッ！ウッソー！」「マジ？」「メッチャ、イヤ！」これを文字に置き換えて第三者に見せても、おそらく何も伝わらないと思います。

「話しことば」から将来「書きことば」の世界に入ることを見通して、まず幼児期では、「話しことば」の力を十分に育てることが大切だと言われています。

「話しことば」による理解力と豊かな表現力です。しっかり人の話を聞いて理解する力、自分の経験や気持ちを、言語できちんと人に伝える力が必要なのです。

話しことばの発達にも道筋があります。乳児期前半に笑顔と笑い声を獲得してコミュニケーションの土台とします。さらに乳児期後半には大人の指さしに反応したり「ちょうだい」「はい」ということばに合わせて物のやり取りをしたり、リズムカルな言葉や歌に合わせて一緒に手や身体を動かすような「動作のやり取り遊び」を通して「ことばの前のことば」の力を豊かにしていきます。そして、1才から1歳半を中心に一語文を獲得し、二歳半から三歳半にかけて二語文から多語文、さらに対話へと話しことばを拡大していきます。4歳頃は話しことばの「一応の完成期」とも言われ、キャッチボールのようなことばのやりとりをし、対話を発展させることができるようになります。

本園では、3歳児から、活動の後に「振り返る」場を意図的に設け話しことばを育てています。3歳児では、身振り・手振りを使って、「えーとな」「こんなん」と先生との対話により、お話することを楽しめます。聞いて共感してくれる存在が話しことばを豊かに育てます。

4歳児になると、友達の話に耳をそばだてて聴く姿が見られ始めます。友達を真似たりわざと違うことを意識したりと、話しことばに広がりが見られるようになります。そして、5歳児になると、友達に伝えたい思いが強くなり、自分の経験を道筋立てて伝えようとする姿が見られ出します。また、友達の発言に対して、質問したり補ったりする「話し合い」による学び合いもできるようになります。

このように話しことばが豊かになった時点で、文字学習を開始すると、その文字を使って、書き言葉への世界への移行期に入ることが容易になります。

「話しことば」の力は、基本的には対面している人との相互関係の中で育つものです。話したいことがあって、話したい相手(保護者・保育者・友達)がいて、聞いて共感してくれる環境で話しことばは育つのです。ここでも大人の聞き上手が、そして、共感力も求められています。